

「京機会 海外へチャレンジ・脇坂基金」に関する覚書

制定:2009年7月17日

改訂:2009年12月1日

改訂:2010年2月1日

改訂:2011年5月23日

改訂:2012年4月19日

改訂:2012年6月19日

改訂:2019年5月1日

本基金600万円は、京機会会員 脇坂 知行氏（1969年卒）の御篤志により創設されたものである。

趣意 京都大学機械系学科は、日本の産業・工業の発展を導いてきた多くの人材を生み出し、今日までの日本の豊かさの礎を築いて来た。しかし、近年は日本の産業を始めとする様々な分野で、停滞状況が広がって来ている。これは、日本人の視野が内向きになっていることや、安定性志向が一因と考えられる。このような状況を打破するため、京都大学機械系学科は、将来の日本を支える人材として、チャレンジング精神かつ国際的視野を持った人材を輩出し続ける責務を負っている。そして、そのことは若い人々の育成に懸かっている。とりわけ、大学院修士課程に在学する学生が、自分の研究成果を海外で発表すること等にチャレンジすることを通じて、世界の様々な国の研究者・技術者がどのような考え方をするかを知り、良い知己を若い内から得ることは、国際的に広い視野を持った人材として成長する上で極めて重要なことである。チャレンジング精神に富む学生が、在学中にそのような機会を得やすいように援助できれば、それは京都大学機械系学科のみならず、日本の発展、延いては世界の人々の幸せに、些かでも寄与できるものと考え、この基金を提案するに至った。

補助金給付実施要項

その詳細を以下のように定める。

1. 本基金は、京都大学大学院機械系専攻の研究室に所属する京機会学生会員自身が、修士課程在学中に、国際会議等で初めて研究発表、あるいは国際的なエキジビション等で自分の研究開発成果を初めて展示、もしくは国際的な技術コンペティション等に初めて出場・出品等を行う際に必要な旅費を補助するものである（ただし、これらの国際会議、エキジビション、技術コンペティション等は、海外で開催されるもののみを対象とする。関連して、国内で開催された国際会議やエキジビション等には参加した経験があっても、それらは対象外とみなすので、応募可能とする）。
2. 補助額は1名当たり、
渡航先がアジア圏内の場合 10万円を上限とする旅費（格安航空券であること）
渡航先が欧米豪の場合 15万円～20万円を上限とする旅費（格安航空券であること）年間6名以内とする
3. 受給者の選考は、別に定める細則に基づき、京機会幹事会で承認された「京機会 海外へチャレンジ脇坂基金」運営委員会（以下、基金運営委員会）で行う。
4. 本補助制度は、本基金の残額が無くなった時点で終了する。

細則

1. 募集は京機会が年 3 回行い、それぞれの締切日は 3 月末・7 月末・11 月末とする。
原則として以下の締切分ごとに 2 名以内を選考する。

3 月末締切:国際会議等の開催日初日が 5 月~8 月の場合を対象とする。

7 月末締切:国際会議等の開催日初日が 9 月~12 月の場合を対象とする。

11 月末締切:国際会議等の開催日初日が 1 月~翌年 4 月の場合を対象とする。

2. 応募者は、参加する国際会議、エキジビション、技術コンペティション等の詳細の分かる資料、発表予定が見込まれる場合はその予稿(第一著者と共著者が分かるもの)、あるいは展示品・コンペティション出場品等の説明資料ならびに旅費予算書(旅程, 航空運賃、他の予算での支弁額等詳細がわかる書類)を添えて、京機会内の基金運営委員会宛に添付ファイルの「応募申請書」、「旅費予算書」を送って下さい。
3. 上記枠内でできる限り広くかつ公正・公平に配分するため、応募(予定)者は応募の意志をできるだけ早い段階で基金運営委員会に一報するように協力すること。これは、細則第 1 項で定める年 3 回の締切りと応募者数の偏りを緩和し、柔軟に対応するためである。
4. 本基金により助成を受けた学生は、帰国後 2 週間以内に報告書として、発表・出展・出場等に関する英文および和文の概要(図・表・写真付きで、A4 サイズ各 1 頁程度、国際会議等の名称・開催地・会場・期日、参加者の名前を記すこと)、および発表論文(あるいは現地で用いた展示品・コンペティション出場品等の説明資料)を、いずれも PDF ファイルで基金運営委員会に提出すること。

「京機会 海外へチャレンジ・協坂基金」運営委員会

Wakisaka Fund
KEIKIKAI

KYOTO UNIVERSITY